

令和元年度

# 日高地区の研究活動

日高地区校長会道小研修担当

日高町立厚賀小学校 校長 上野信仁

## 1. はじめに

日高地区校長会では、学習指導要領の改訂や今日的な管内状況等を踏まえ、新しい時代や社会の要請に対応した「新学習指導要領実施に向けた学校経営ビジョンの実現」をテーマにした研究に2カ年計画で取り組んでいるところである。

本年度は2年次であり、自校の経営ビジョンを有効に機能させるための組織におけるマネジメントの視点を明確にするとともに、研究の実践過程をPDCAのマネジメントサイクルに基づいて位置づけ、校内組織の活性化及び教職員の資質向上を目指し研究を進めている。特に今年度は、「主体的・対話的で深い学びによる授業改善」及び「カリキュラムマネジメント」に焦点化する。



講演：日高教育局 局長 波岸克泰 様

## 2. 研修計画

### (1) 研究課題（平成30～31年度）

『次期学習指導要領実施に向けた学校経営ビジョンの実現を目指す校長の指導性の発揮～カリキュラム・マネジメントに基づく確かな学びの実現を目指した取組を通して～』

### (2) 研究対象

学校経営ビジョンの実現に向けた校内組織の活性化と教職員の資質向上

### (3) 研修の視点・内容

- ① 自校の経営ビジョンを有効に機能させるための組織マネジメントにおける校長の指導性について研究する。
- ② 組織マネジメントを研究対象とするにあたり、組織におけるマネジメントの視点を明確にし、その向上に取り組む。その際、新学習指導要領で示された資質能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教科等横断的な視点による教育課程の編成及びその検証改善による必要な資質能力の育成、地域・社会資源の有効活用等、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた取組とする。

### (4) マネジメントサイクル

研究の実践過程を、マネジメントサイクルに基づいて位置付け、実践・検証する。

- ・課題 / 現状把握 (U)
- ・具体的方策 / 計画 (P)
- ・取組の状況 / 実施 (D) (7月ブロック交流)
- ・成果と課題 / 評価 (C) (12月管内交流)
- ・次年度の方策/改善 (A)

### (5) マネジメントの視点

- ① 組織体制の構築

学校経営ビジョンの実現に向け、校長の方針を具現化するために、学校全体が意図的、計画的に機能させられる組織をどう構築していくか。また、どのような組織づくりが望ましいのか。

② 人材の活用（教頭・主幹教諭）

組織の構築、運営に関わり、教頭・主幹教諭をどう機能させていくのが望ましいのか。また、組織を有効に機能させるための教頭・主幹教諭の資質向上をどう図っていくか。

③ 人材の活用（主任等）

組織の構築、運営に関わり、主任や中堅教諭（ミドルリーダー）等をどう機能させていくのが望ましいのか。また、組織を有効に機能させるための主任や中堅教諭（ミドルリーダー）の資質向上（意識改革）をどう図っていくか。

④ 人材の活用（一般教諭）

組織の構築、運営に関わり、一般教諭をどう機能させていくのが望ましいのか。また、組織を有効に機能させるための一般教諭の資質向上（意識改革）をどう図っていくか。

### 3. 研究活動の概要

(1)全連小各種委員会調査への協力

(2)ブロック別研修会

○東部ブロック（日高町・平取町）

期日：7月31日 会場：平取町立平取小学校

○中部ブロック（新冠町・新ひだか町）

期日：8月2日 会場：新ひだか町立静内中学校

○西部ブロック（浦河町・様似町・えりも町）

期日：8月28日 会場：浦河町立堺町小学校

(3)地区校長会教育経営・法制研究会

期日 8月5日

会場 新冠町レ・コード館

講和 「教職員のコンプライアンス」（講師：日高教育局企画総務課長 田口俊孝 様）

(4)地区校長会課題別研修会

期日 9月2日

会場 新冠町レ・コード館

講和 「日高管内教育の課題について」（講師：日高教育局 局長 波岸克泰 様）

(5)日高管内小・中学校長研修会

期日 11月19日・30日

会場 新冠町レ・コード館

講演 「北海道教育の今日的課題について」（講師：日高教育局 局長 波岸克泰 様）

(5)全連小・全道小大会への参加

全連小秋田大会 10月17日・18日 参加者：3名

全道小苫小牧大会 9月13日・14日 参加者：9名、第三分科会発表

### 4. おわりに

日高地区校長会は、課題解決のために、校内組織の活性化と教職員の資質向上に取り組んできている。校長の強いリーダーシップの下、各校で実践を深めてきた成果が表れ、学校組織一丸となつての中間評価実施等、学校の組織化・機能化が著しく進展してきている。さらに新学習指導要領に対応する学校経営となるように、引き続き研究活動を充実させていきたいと考えている。